

# 福山・山野中の模擬株式会社

# 地域一体で起業家教育

福山市山野町の市立山野中(柳井晃司校長、10人)で生徒が模擬株式会社「やまのアクティベーション」を設立し、株を発行するなどして得た資金で和紙製品を特産品として製作、販売している。経済活動を通して想像力やコミュニケーション能力を養う「起業家教育」の一環だが、「活動を通して子どもと大人が交流し、地域の結びつきが強まった」との声も。地域を活性化させる効果が出てきている。(佐藤行彦)

「本日をもって本社セールス部に任命する」。4月下旬、浅井秋子さん(12)ら1年生3人が、3年生から入社した「辞令」を交付された。浅井さんは「本当に自分が商品売れるの不安だけでなく、仕事はワクワクする」と意欲を語った。会社説明会では「アイデア部」「生産部」などの生徒から職務の内容や商品の特徴などを聞いた。

同中学では昨年、総合学習として起業家教育を取り入れることを決めた。生徒たちはまず、「先進事例調査」として、尾道市原田町の市立原田中(杉原満治校長、11人)を訪問。学校周辺の落ち葉を腐葉土にして模擬株式会社で販売している取り組みから、起業のノウハウを学んだ。

山野中の生徒は独自商品の開発を検討し、和紙の原料となる植物・ガンピが地元にも多く自生しているのに着目。ガンピの皮をむいて煮沸し砕いたものを漉いて和紙を作り、はがきにした。はがきと地元の野草の写真

## (bingo)現場から

柴田社長(右)から入社を申し出る1年生ら(福山市立山野中学校で)



を張り付けたしおり、折りバラを組み合わせた看板商品「和紙」(200円)を約150セット作った。昨年11月、活動の基本となる定款を定め、正式に模擬株式会社を設立。株式は1株100円(販売は10株

## 住民が株主 和紙商品販売 深まる交流

単位)で、配当はないが、株主は商品を安く購入できることにした。同月、開いた説明会には住民約40人が集まり、350株が売れた。

株主の自動車部品製造業、柴田雅弘さん(57)は、子どもたちは地域の特性を生かした商品を開発しようと真剣そのもの。地元を愛することの大切さを逆に教えられた」と話す。

地域の秋祭りでは、商品が64セット売れた。2月の株主総会では事業の成果を住民に報告。今年、和紙の絵はがきや独自のキャラクターグッズなど、新商品の開発にも取り組む。

社長の3年柴田和弥さん(14)は「商品の販売や接客など慣れないことが多いけど、みんなで協力して何かを作り出す作業は楽しい」と笑顔を見せた。

柳井校長は「活動を通じて子どもが輝いてきた。地域を活性化できるように育ててほしい」と話している。